

第四回

農業

ウエルネス日記

下総乃国旧布鎌村から

新海和夫

元雪印種苗(株)園芸推進室室長
宮崎研究農場長



1952年千葉県生まれ。新海農園後継者1年生。元雪印種苗(株)宮崎試験農場長、園芸推進室長。二科会写真部所属、第77・78回連続入選。栄町観光協会理事・審査員。都城市ウエルネス特派大使。SDA千葉教会理事。日本サクラの会・栄支部理事。家庭園芸士、樹医。千葉県印旛郡栄町四ツ谷146
☎0476(95)2801



“ウエルネス都城”知られざる風土②

農業をこよなく愛した西郷隆盛

西郷隆盛が所属した薩摩藩は、島津莊発祥の地である都城と大変深い関係にあります。

私の尊敬する西郷隆盛は、貧しい武士の子で、いつも百姓で生計をつないでいました。そんな西郷さんは、こよなく農業を愛した方でした。

薩摩藩は不毛のシラス(桜島の火山灰土)に覆われ、大変貧しかったといえます。農学書によると、殿様の島津成淋や西郷さん等が農業塾を開設し、農業の生産性向上に一生懸命だったそうです。大変な時代の中心人物でしたが、何よりも平和に農業にうちこみたかったのだそうです。

私の好きな西郷さんのこのような部分を学びたい。これが都城を選んだ理由の一つです。

都城行きを決意したもう一つの理由

白尾五紀氏に出会ったのは、種播きのため、日帰りで都城を往復していた時でした。「ソルゴー」の草丈が伸びず穂が出ているとのクレームがきつかけでした。何という情熱家で熱心な人かと感激し、都城行きを決意したのです。後に兄弟以上のおつきあいになろうとは思いませんでした。

彼は小さい頃に御両親をなくし、おばあちゃんと共に苦労され、現在の酪農経営に成功し、宮崎県の農業指導士として後任の指導にも努力された方です。又、草地・飼料作物の栽培にはことのほか熱心で、土づくりを基本にした、草づくり、牛づくりの、南九州の先駆者としても立派な業績をあげられました。

ソルゴーサイレージにおいては、宮崎大学農学部の中村・田中・川村先生らと協力し、自らの愛牛で消化試験を実施、

国際草地学会に発表され、南九州におけるサイレージ給与技術確立に対し多大な貢献をされました。今日私がこうしているのも白尾さんのお陰と感謝いたしております。

私の生涯の模範 中村英蔵氏の生き方

私が雪印種苗の初代場長を務められたのは、中村英蔵さんの支えのお陰です。雪印種苗宮崎研究場が、今日地域に貢献できているのも、今は亡き中村さんの力です。

中村さんは、肉の行商売りをしながら現在の中村食肉を築き上げ、宮崎県食肉組合の会長を務めた、南九州・宮崎和牛の育ての親です。そんな方でありながら、いつも謙虚に大好きな自分の牧場の牛の世話に汗していました。私はそんな中村さんの後姿を見ながら、多くのことを学びました。

地域のリーダーでありながら、いつも謙虚に私利私欲なく、ただひたすら南九州の農業・畜産の発展の為に働き、地位・名譽にはこだわらずに生きられた方でした。多くの人々に慕われ、亡くなられた後も有志により銅像が建ち、今もなお多くの人々の心に生きておられます。

私のような見ず知らずの若造に耳を傾け、心を傾け、相談に乗り親身になって応援していただけたことは、何よりの励みであり、勇気をいただきました。何か、現世の西郷隆盛にお会いできたようなすがすがしい一ページでした。南九州に来て本当に良かったと思わせてくれた、私の大切な方のお一人です。生涯の師として忘れることはできません。

写真の師匠

飯田長雄・川崎利昭両先生

私が写真のとりこになったきっかけが、飯田長雄・川崎利昭両先生との出会

いでした。

南九州には、名峰霧島連山、桜島があり、多くの芸術家が生まれ育っています。名峰に芸術家育つ、と言われるように、良い山は心の故郷となり、朝夕の変化の美しい様を見ながら芸術心が生まれ、いつしか立派な芸術家の誕生となるのです。

私も、都城盆地の素晴らしさに出会ってから、高千穂の峰を中心にした美しい自然を日本の農村の古里とイメージし、写真を撮りつづけるうちに、二科展へ入選するまでになりました。

これもきっかけは、両先生が中心となつて行われていた、都城市写真教室に参

加したことです。次第におもしろくなり、

市美展入賞三回・無監査、宮崎県展・宮日展連続入選、勤労者美術展労働大臣賞受賞、二科展連続入選することができ、今日に至っております。

飯田先生は、写真家の秋山庄太郎先生や、植田正治先生、白川義貞先生、峰須賀秀紀先生等と共に二科展写真部を支え盛り立てながら、地元でも文化賞受賞等の実績があり、大変地域に貢献されている方です。さらに地域の名医・飯田病院の院長先生としても有名な先生です。

川崎利昭先生は、都城市で川崎写真館を経営されながら、飯田先生と共に写真界の現場で指導にあたられ、飯田先生の

後継者として地道な活動を続けられています。特に、「ウェルネス都城」C I事業においては、PR専属カメラマンとして大変な活躍でした。

川崎先生は、都城盆地の高校野球ファンの間では有名な方で、夏の甲子園予選大会では、全試合の記録写真と全選手一人ひとりの写真を撮り、毎年個展を開いて話題となっております。ひたむきな高校球児を追う目は、高校生の純真な心をも写し撮る素晴らしいものがあります。

写真とは何か、写真の喜び、素晴らしさを教えていただいた、私にとつ

てかけがないの両先生です。

郷土史家・鳥集忠男先生

前日も御紹介いたしました「ゴッタン」の鳥集先生は、郷土史家としても大変有名な先生です。私が、都城を知るうえで大変興味深く、参考にさせていただいたのが、鳥集先生のゴッタン弾き語りコンサートと、都城農協広報連載の「都城盆地歳時記」(祈りの心です。これは後に「からも風土記」として出版されており).

構成を紹介いたしますと、

第一部 祈りの心―都城盆地歳時記―(都城盆地の生活に伝わる民俗行事や芸能を季節ごとに紹介。その由来を訪ね、伝承の心と現代に生きる意義を見直す)

第二部 「地の塩」を訪ねて

(ともすれば忘れがちな都城盆地の歴史に光をあて、その苦勞を偲びつつ、現代に受け継がれる開拓者の精神に学ぶ) 以上のような構成で、都城新参者にとつてはありがたいものでした。単に歴史・風土を知るだけでなく、都城盆地・農村文化の人情の機微に触れられる絶好の語り書であり、語り手です。

今の農村には、このような、民俗行事を語り伝え楽しむゆとりと、「継承しようとする心」が欠けているようで残念です。一にも二にも利益・ビジネス規模拡大。今の私共の農村に何が足りないかという、都城盆地のようなゆとりとした時の流れと、民俗行事・芸能を楽しむ豊かな心だと思います。そして鳥集先生のような、農村文化を弾き、語り継ぐ人

がないことだと思います。

もつともつと、農村を語り、描き、多くの人に農村の魅力・良さを知ってもらいたいのです。そのような点で、都城盆地には鳥集先生という素晴らしい宝があります。先生には、お元気で、日本中の人にも農村文化の素晴らしさを語っていただきたい気持ちでいっぱいです。

都城盆地の現在のリーダー 岩橋辰也都城市長

市長・政治家の多くの皆さんを知る私にとつて、これほど素晴らしく尊敬に値する方は、岩橋都城市長をおいてほかにないと思っています。

まず、私利私欲なく、誠実で、行動力のある方だと思います。都城市役所勤務(助役)退職後、市長として五期目を迎え、その都城一筋に働きたいという謙虚さに、私は心を動かされます。

都城盆地のみなさんは、大変に恵まれたみなさんだとつくづく思います。全国でも一番早く、市をあげてC I事業に取り組み、「ウェルネス都城」健康都市宣言をされ、それが今、見事に花開こうとしています。

今日の私があるのは、多くの立派な人々と都城盆地の自然に育まれたお陰です。この御礼に、私は、農業で、お返しができると思っています。

素晴らしい都城盆地の農産物を関東・全国の人々に知っていただき、利用・流通できるように橋渡しすることがなによりだと思っています。都城のみなさんありがとうございました。



「盆地初冬」S63年九州二科展入賞 都城盆地の夜明け